

50年以上に亘り、地元の子供たちを 育ててきたそろばん塾 将来の日本を「そろばん」が支える

啓明学院

くめナビ jc***!+

啓明学院(品川区西品川、知井邑

と)になる。

雄学院長、03・3492・096

「敏捷性」…耳で聞き、脳で理解

1)は、珠算教室として昭和31年に設立、以後56年もの長きに亘り、地元の子供たちの教育に深く携わっている。知井学院長は、社団法人全国珠算教育連盟の理事長も務めた経歴の持ち主だ。

し、指が反応するのが珠算の基本。これを瞬時に行うことにより、敏捷性が養われていく。

学校の基礎教育は「読み書き」

さらに、計算は通常左脳しか使わないが、そろばんでは計算すると左脳に加えて、創造性や直感、イメージを司る右脳の両方を使うと言われている。

「計算」だが、日本の児童の計算力は年々低下傾向にあり、九九を間違えて覚えたままの児童は多いとのこと。電卓の機能面を重視した結果、そろばんによる珠算学習の有用性が軽視されていることも関係しているのだろう。

珠算学習は、計算力・暗算力を高めるだけではなく、子供たちに様々な能力を身につける機会を与える。

幼少時の教育において、器具を使って物事を覚えることは、子供の興味や関心を引きつけるのに有効である。おはじきやブロックを使って算数を覚えた経験は誰もが持っているはずで、そろばんという教具は、子供の数字に対する関心を引きつける役目もあるのだ。

「集中力」…珠算は、数字を記録する作業の連続であり、素早く判断し実行できる集中力が養われる。

「忍耐力」…珠算は、繰り返し反復練習することが必要であり、嫌がらず我慢できる忍耐力が身につく。

同学院に通学する生徒は、「努力」して検定試験に挑戦し、試験に合格することにより「自信」を身につけている。そうした生徒は、やはり多方面で活躍することが多いそうだ。知井学院長のモットーは、「進取(みずから進んで物事に取組むこと)」である。「現代の子供たちは与えられているものが多く、自主性に欠ける面がある。珠算教育を通じて、地域の子供たちの人格形成に努めている」と強い自負を持って取組んでいる。

「積極性」…努力をすれば、珠算は必ず上達

するものであり、検定に合格するたびに達成感ややる気、やればできるという気持ちを生み出し、積極性を身につけていく。引いては、心が豊かになり精神面の成長を促していくこ



集中して珠算に取り組む子供たち

は与えられているものが多く、自主性に欠ける面がある。珠算教育を通じて、地域の子供たちの人格形成に努めている」と強い自負を持って取組んでいる。